



KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル

2025 春のラインナップ決定！

サウンドウォーク・コレクティヴ&パティ・スミス

コムアイ

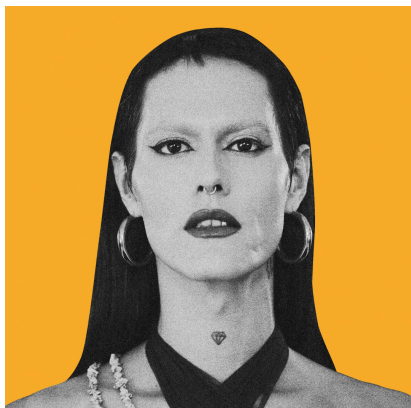
フィリペ・カットなど

その他、今後も追加発表予定



サウンドウォーク・コレクティヴ&パティ・スミス

この度、一般社団法人 KYOTOPHONIEは、「[KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル 2025 春](#)」のラインナップを発表いたします。世界的な文化アイコンであるパティ・スミスとニューヨークやベルリンを拠点に活動する現代音響芸術コレクティヴ「サウンドウォーク・コレクティヴ」、水曜日のカンパネラの初代ボーカリストコムアイ、そしてブラジルで人気を集めるファルセット・ヴォイスのロックスター、フィリペ・カット。



フィリペ・カット



コムアイ

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

各公演は、KYOTOPHONIEの姉妹イベント「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2025」開催期間に合わせて2025年4月12日(土)～5月11日(日)に、京都市内各所にて行われます。

KYOTOPHONIEは毎年、国内外の多彩なアーティストを京都に招き、パフォーマンスを繰り広げています。毎年春と秋に開催されるこのフェスティバルは、「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」の共同創設者であるルシール・レイボーズと仲西祐介によって2023年に設立されました。両フェスティバルは、従来のジャンル、会場、形式にとらわれず、京都と世界を繋ぐ架け橋となっています。

「KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル 2025 春」は、姉妹イベントであるKYOTOGRAPHIE 2025のテーマ「HUMANITY」(人間性)からインスピレーションを受け、写真の枠を超えて音やパフォーマンスの世界にも拡げていきます。

【KYOTOPHONIE 2025 Spring ハイライト】

サウンドウォーク・コレクティヴ & パティ・スミス | コレスポンドンス
伝説の詩人、約9年ぶりの来日！



Courtesy of Soundwalk Collective

ゴールデンウィーク中の4月29日(火)に、実験音楽、オーディオビジュアル、パフォーマンスアーツを紹介するイベントシリーズ「MODE」と共同で、パティ・スミス(Patti Smith)とサウンドウォーク・コレクティヴ(Soundwalk Collective)の日本初公演となるパフォーマンス「コレスポンドンス(CORRESPONDENCES)」を開催します。チケットは、昼公演、夜公演ともに2025年2月15日(土)10:00より、e+(イープラス)にて販売を開始します。

「コレスポンドンス」は、パティ・スミスとサウンドウォーク・コレクティヴによる10年以上におよぶ協働プロジェクトで、さまざまな地理や歴史、自然環境を横断する作品です。

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

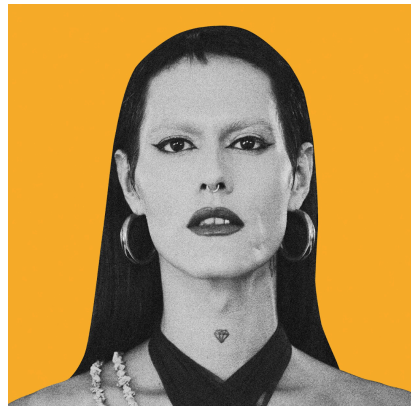
サウンドウォーク・コレクティブのステファン・クラスニアンスキーが、詩的な靈感や歴史的な重要性をもつ土地を訪れフィールドレコーディングによって「音の記憶」を採集し、パティがその録音との親密な対話を重ねて詩を書き下ろし、さらにそのサウンドトラックに合わせてサウンドウォーク・コレクティブが映像を編集する。こうした“往復書簡(=コレスポンド)”によって生まれたのが、本パフォーマンスの根幹を成す8つの映像作品です。これらの映像は、チェルノブイリ原発事故や森林火災、動物の大量絶滅といったテーマを探求するとともに、アンドレイ・タルコフスキー、ジャン=リュック・ゴダール、ピエル・パオロ・パゾリーニ、ピョートル・クロポトキンといった芸術家や革命家を参照しながら、人間と自然の関係やアーティストの役割、人間の本質について観るものに問いかけます。

「コレスポンド」はこれまでに、ベネチア・ビエンナーレやコロンビアのメデジン近代美術館をはじめ世界各地でライブパフォーマンス、展覧会、上映、詩の朗読会、ワークショップと多岐にわたる形式で発表してきました。2022年にはパリのポンピドゥー・センターで「コレスポンド」の前身となる展覧会「エヴィデンス(Evidence)」を開催しています。

「コレスポンド」は、京都公演のほか、5月3日には新国立劇場 オペラパレスで東京公演が行われます。(主催:MODE / 株式会社YY)また、4月26日～6月29日には、東京都現代美術館にてエキシビション「MOT Plusサウンドウォーク・コレクティブ & パティ・スミス | コレスポンド」が開催されます。(主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 / 株式会社YY、企画協力:MODE)

Filipe Catto | フィリペ・カット

現代ブラジル音楽を代表するアーティストが日本初公演！



現代ブラジル音楽を代表する美声を持つフィリペ・カットの日本初公演が決定。新たなサウンドや表現を京都へ届けます。4月19日(土)にヒューリックホール京都で彼女の日本デビューを飾るパフォーマンスを行います。

彼女はブラジルで瞬く間に注目を集め、ネイ・マトグロソやマリーナ・リマといったレジェンドたちからも高く評価されています。彼女のパワフルな歌声と多彩なサウンドは、ガル・コスタの音楽を新世代のために再構築したアルバム『Belezas são Coisas Acesas por Dentro』(2023年)からもわかるように、ジャンルを融合させたユニークな音楽が特徴です。サンパウロというラテンアメリカ最大の都市で生きるノンバイナリーのトランスジェンダーとしての自身の経験を重ねながら、ガルの楽曲を繊細かつ力強く表現しています。

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

KYOTOPHONIEでのパフォーマンスでは、モレイラ・サレス写真研究所の協力のもと、ブラジルの伝説的写真家マダレーナ・シュワルツの70年代のサンパウロのアンダーグラウンド・カルチャーの写真をスクリーンに投影します。シュワルツは、サンパウロのLGBTI+を撮影した第一人者です。

KOM_I | コムアイ



音楽ユニット・水曜日のカンパネラの初代ボーカリストとしても知られ、近年は世界中の土着文化からの影響を感じさせるステージでも注目されるコムアイ。彼女が現在拠点としているブラジルのバイーアから一時帰国し、4月19日にヒューリックホール京都でパフォーマンスを行います。

彼女は、声や身体を軸に既存の枠組みにとらわれない、新しい表現を常に探求しつづけています。KYOTOPHONIEでは、アマゾンやブラジルをはじめとする新しいインスピレーションを融合させ、今の彼女を反映させた新しいパフォーマンスを披露予定。

主な作品に、屋久島からインスピレーションを得てオオルタイチと制作したアルバム『YAKUSHIMA TREASURE』や、奈良県明日香村の石舞台古墳でのパフォーマンス『石室古墳に巣ごもる夢』、東京都現代美術館でのクリスチャン・マークレーのグラフィック・スコア『No!』のソロパフォーマンスなどがあります。現在はペルーのアマゾン地帯での出産体験を綴った本を執筆中。

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

KYOTOGRAPHIE / KYOTOPHONIE / KG+ キックオフ・パーティー



Photo by Kohei Take

KYOTOGRAPHIE / KYOTOPHONIE / KG+のキックオフ・パーティーを、4月12日(土)に現存する日本最古のクラブである、CLUB METROで開催し、KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭、KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル、KG+のオープニングを祝います。これら3つのイベントは、2025年4月12日(土)から5月11日(日)まで同時開催されます。

ブラジル人アーティストのフィリペ・カットをはじめ、京都から世界、またアンダーからオーバーまでシームレスに活躍するアーティストが一堂に会します。

スペシャルインフォメーション

サリフ・ケイタ新作アコースティックアルバム『So Kono』
KYOTOPHONIEとNø Formatによる共同プロデュース！



マリの伝説的シンガー、サリフ・ケイタが、2025年4月11日にリリースする自身初のアコースティックアルバム『So Kono』で全世界待望の復活を遂げます。

“アフリカの黄金の声”と称されるケイタは、初めてのアコースティック編成で長年連れ添ったギターを再び手にし、アフリカの伝統楽器と共に自身のルーツを振り返ります。

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

これまでアコースティックアルバムの制作を避けてきた彼に転機が訪れたのは、2023年。写真家ルシル・レイボーズの発案と、ミュージックプロデューサーのローラン・ビゾー (Nø Førmat!!!) の後押しにより、「KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル 2023 春」でパフォーマンスを行ったことでした。京都の禅院・光明院の重森三玲作の神秘的な枯山水からインスピレーションを得て、信頼するミュージシャン(ンゴニのバディエ・トゥンカラとパーカッションのママドウ・コネ)に支えられ、ホテルのベッドルームでアルバムをレコーディングしました。

京都のホテルの一室でレコーディングされた『So Kono』(マンディンカ語で「部屋の中で」)は、経験と旅を経て磨かれた力強い歌声を、シンプルなアレンジで際立たせた珠玉の作品です。このアルバムは、新たに生まれ変わった名曲と新しい楽曲を融合させ、時代を超えて人々の共感を呼び起こします。また、サリフ・ケイタが文化や大陸を超えて、現存する世界で最も偉大な歌手の一人と称される理由を改めて示しています。

アルバムのカバー写真は、「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」と「KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル」の共同創設者であるルシル・レイボーズが、ケイタの京都滞在中にレコーディングに使われたベッドルームで撮影しました。レイボーズは彼の長年の友人であり、専属フォトグラファーでもあります。

友情、喪失、そして感謝を音楽で紡ぐアルバム『So Kono』は、4月11日よりオンラインで、また4月12日からは八竹庵(旧川崎家住宅)とTIME'Sビルに設置されるKYOTOGRAPHIEのインフォメーションセンターにて購入可能。サリフ・ケイタは2025年から2026年にかけてワールドツアーを行うことが決定しています。



Salif Keita in Komyō-in © Lucille Reyboz

[KYOTOPHONIE 2025 SPRING プレスキット](#)

プレスお問い合わせ

小泉智子 (KYOTOPHONIE Kyoto PR) tomoko.koizumi@kyotophonie.jp

須田千尋 (CHIHIRO SUDA INC) chihiro@chihirosuda.com

岡村サトキ (MUSIC ODYSSEY) okamura@musicodyssey.tokyo

市川靖子 (iroiro Inc.) i@iroiroiroiro.jp

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【フェスティバル概要】

フェスティバル名: KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル 2025 春
日程: 2025年4月12日(土) - 5月11日(日)
会場: CLUB METRO、ヒューリックホール京都、ロームシアター京都 (サウスホール) など京都市内各所
主催: 一般社団法人KYOTOPHONIE

KYOTOPHONIE 2025 Spring スポンサー & パートナー

※2025年2月13日現在、今後追加情報あり

メインスポンサー

DIPTYQUE
PARIS

agnès b.



THE RITZ-CARLTON

KYOTO

スペシャルパートナー
α-STATION FM KYOTO
モレイラ・サレス研究所

ホテルパートナー
エースホテル京都
ぎおん美先
ホリデイ・イン京都五条
ノーガホテル 清水 京都
ザ・サウザンド京都

In Collaboration with
KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭

共催
(サウンドウォーク・コレクティブ & パティ・スミス | コレスポンドンス)
MODE / YY

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【各公演概要】

公演名	KYOTOGRAPHIE / KYOTOPHONIE / KG+ キックオフパーティー フィリペ・カット、他
公演日	2025年4月12日(土)
公演時間	20:00 開演～深夜
会場	CLUB METRO 〒606-8396 京都市左京区下堤町82 BF 恵美須ビル MAP
チケット	チケットやアーティストについての詳細は後日発表予定です。最新情報はKYOTOPHONIEの公式ウェブサイトやSNSをご確認ください。

公演名	フィリペ・カット × コムアイ
公演日	2025年4月19日(土)
公演時間	17:00 開場(予定) 18:00 開演 ※変更の可能性あり
会場	ヒューリックホール京都 〒604-8023 京都市中京区備前島町310-2 立誠ガーデン ヒューリック京都 1F MAP
チケット	前売り 5,000円 当日 6,000円 チケット発売日:2月20日(予定) ※詳細は後日KYOTOPHONIE公式サイトやSNSにてお知らせいたします

公演名	KYOTOPHONIE in collaboration with MODE サウンドウォーク・コレクティブ & パティ・スミス コレスポンデンス
パフォーマンス出演	パティ・スミス(ヴォーカル) ステファン・クラスニアンスキー(フィールドレコーディング/フォーリー) シモーヌ・メルリ(シンセサイザー) ルーシー・レイルトン(チェロ) ディエゴ・エスピノサ・クルス・ゴンザレス(ドラム/パーカッション) ペドロ・マイア(ビジュアル/ライティング) セバスチャン・ビュロー(サウンドエンジニア)
公演日	2025年4月29日(火・祝)
公演時間	【昼公演】12:00 開場 / 13:00 開演 【夜公演】16:30 開場 / 17:30 開演
会場	ロームシアター京都 サウスホール

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

	〒606-8342 京都府京都市左京区岡崎最勝寺町13 MAP
チケット料金 (前売り/税込)	SS席指定 20,000円 S席指定 11,500円 A席指定 9,500円 B席指定 5,500円 ※未就学児童入場不可 ※小学生以上チケット必要 ※チケット購入後のキャンセル・変更・払い戻しはいたしません
チケット販売	日本のお客様 イープラス https://eplus.jp/correspondences/ 【店頭販売】ファミリーマート店頭(店内マルチコピー機) 【店頭購入方法】 https://support-qa.eplus.jp/hc/ja/articles/6638367888665 ・オフィシャル先行抽選 2025年2月15日(土)10:00 ~ 2月24日(月・祝)23:59 ・最終先行先着 2025年3月8日(土)10:00~ 海外のお客様 イープラス https://ib.eplus.jp/correspondences 一般発売 2025年3月1日(土)10:00~ ※チケットはオンラインのみで販売され、先着順となります。
公式ウェブサイト	KYOTOPHONIE : https://kyotophonie.jp/ MODE : https://mode.exchange
公演に関する問い合わせ先	京都公演に関するお問い合わせは、こちらまでご連絡ください。 KYOTOPHONIE事務局 info@kyotophonie.jp
主催	一般社団法人 KYOTOPHONIE / MODE / 株式会社YY

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【アーティスト】

パティ・スミス



Photo by Jesse Paris Smith

パティ・スミスは1946年シカゴで生まれ、ニュージャージー州南部で育ったのち、1967年ニューヨークに移住。詩とロックを融合させた革新的なアルバム『ホーセス』(Horses, 1975)でデビューして以来、数々のアーティストやミュージシャンに影響を与え、世界的な文化アイコンとして知られる。音楽、著作、パフォーマンス、視覚芸術における業績は各分野で高く評価されており、グラミー賞に4度ノミネートされたほか、『ホーセス』は米国議会図書館の国家保存重要録音物登録簿に登録されている。また写真や絵画、インスタレーションを手がけるアーティストとしても活躍し、世界中のギャラリーや美術館で展示を行なっている。著作に全米図書賞を受賞したベストセラー回顧録『ジャスト・キッズ』のほか、『ウールギャザリング』『MTレイン』『無垢の予兆』など多数。2020年にペン/フォークナー賞を受賞、コロンビア大学から名誉博士号を授与される。2022年には彼女の生涯の業績を称えて仏レジオンドヌール勲章を受勲した。

[Instagram](#)

[Spotify](#)

サウンドウォーク・コレクティヴ



Photo by Vanina Sorrenti B

サウンドウォーク・コレクティヴは、アーティストのステファン・クラスニアンスキーとプロデューサーのシモヌ・メルリが率いる現代音響芸術コレクティヴ。アーティストやミュージシャンとの共同作業により、コンセプトや文学、芸術的なテーマを検証するために、場所や状況に応じたサウンドプロジェクトを展開。パティ・スミスや映画監督のジャン＝リュック・ゴダール、写真家のナン・ゴールディン、振付家のサシャ・ヴァルツ、女優で歌手のシャルロット・ゲンズブールといったアーティストたちとの長期的なコラボレーションを行なう。彼らの実践はアートインスタレーション、ダンス、音楽、映画と多岐にわたり、音を詩的で感触を伴う素材として扱うことで異なるメディアを結びつけ、複層的な物語を創造することを可能にしている。ローラ・ポイトラス監督の『美と殺戮のすべて』ではオリジナルサウンドトラックを制作し、2022年のベネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞。これまでポンピドゥー・センター(パリ)、ドクメンタ(カッセル)、クストヴェルケ現代美術センター(ベルリン)、ニューミュージアム(NY)などで展示やパフォーマンスを発表している。

[Instagram](#)

[Bandcamp](#)

[Website](#)

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

「コレスポンドンス」

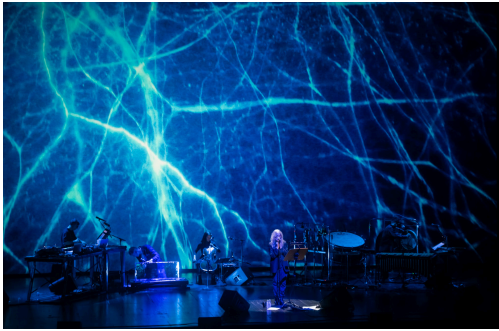


Photo by Rita Carmo

かれらのコラボレーションは、パティとステファンが飛行機の機内で偶然出会ったことから始まりました。その創造的な共同制作は10年以上にわたって継続し、ベネチア・ビエンナーレやコロンビアのメデジン近代美術館をはじめ世界各地でライブパフォーマンス、展覧会、上映、詩の朗読会、ワークショップと多岐にわたる形式で作品を発表してきました。2022年にはパリのポンピドゥー・センターで展覧会「エヴィデンス(Evidence)」を開催しています。

今回日本で発表する「コレスポンドンス」はかれらの最新プロジェクトであり、パティとステファンが10年にわたり交わしてきた“対話”から生まれた作品です。現在進行中で絶えず進化し続けるこのコラボレーションプロジェクトは、さまざまな土地の「音の記憶」を呼び起こし、芸術家や革命家、そして気候変動の継続的な影響の足跡を表現しています。

ステファンが詩的な靈感や歴史的な重要性をもつ土地を訪れフィールドレコーディングによって「音の記憶」を採集し、パティがその録音との親密な対話を重ねて詩を書き下ろし、さらにそのサウンドトラックに合わせてサウンドウォーク・コレクティブが映像を編集する。こうした“往復書簡(=コレスポンドンス)”によって生まれたのが、本エキシビジョン／パフォーマンスの根幹を成す8つの映像作品です。これらの映像は、チェルノブイリ原発事故や森林火災、動物の大量絶滅といったテーマを探求するとともに、アンドレイ・タルコフスキー、ジャン＝リュック・ゴダール、ピエル・パオロ・パヴリーニ、ピョートル・クロポトキンといった芸術家や革命家を参照しながら、人間と自然の関係やアーティストの役割、人間の本質について観るものに問いかけます。

【パフォーマンス出演】

パティ・スミス(ヴォーカル)

ステファン・クラスニアンスキー(シンセサイザー／パーカッション／サウンドトラック／ヴォーカル)

シモーヌ・メルリ(モジュラーシンセ／シンセサイザー／サウンドトラック)

ディエゴ・エスピノサ・クルス・ゴンザレス(ドラム／パーカッション)

ルーシー・レイルトン(チェロ)

ペドロ・マイア(ビジュアル／ライティング)

セバスチャン・ビュロー(サウンドエンジニア)

[Soundwalk Collective official website for CORRESPONDENCES](#)

[日本公演情報](#)

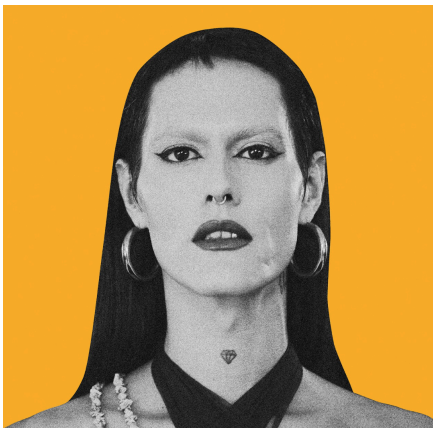
本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

コムアイ



声と身体を主に用いて表現活動を行うアーティスト。日本の郷土芸能や民俗学、北インドの古典音楽に影響を受けている。現在はブラジルのバイーア州に滞在し、ペルーのアマゾンでの出産体験を本にするべく執筆中。主な作品に、屋久島からインスピレーションを得てオオルタイチと制作したアルバム『YAKUSHIMA TREASURE』や、奈良県明日香村の石舞台古墳でのパフォーマンス『石室古墳に巣ごもる夢』、東京都現代美術館でのクリスチャン・マークレーのグラフィック・スコア『No!』のソロパフォーマンスなど。水にまつわる課題を学び広告するアーティビズム・コレクティブ『HYPE FREE WATER』をビジュアルアーティストの村田実莉と立ち上げる。NHK『雨の日』、Netflix『Followers』、映画『福田村事件』などに出演し、俳優としても活動。音楽ユニット・水曜日のカンパネラを2021年に脱退。現在はブラジル、バイーア州に滞在中。

フィリペ・カット



カットは15年以上のキャリアを持ち、現代ブラジル音楽を代表するシンガーとして確固たる地位を築く。ネイ・マトグロソやマリーナ・リマといったレジェンドたちからも高く評価され、これまでに5枚のオリジナルアルバムと2枚のライブアルバムを発表。数々のコラボレーションや受賞歴、ノミネーションを誇る。

最新作「Belezas são Coisas Acesas por Dentro (2023年)」では、偶然にもカットと同じ誕生日(9月26日)を持つガル・コスタの楽曲を新たな世代へと届けるべく、ロックンロールの持つ力強さと自由な精神を取り入れたアレンジを展開。本作では、サンパウロというラテンアメリカ最大の都市で生きるノンバイナリー・トランスジェンダーとしての自身の経験を重ねながら、ガルの楽曲を繊細かつ力強く表現している。

2023年にはサンパウロの世界的音楽フェスティバル「Primavera Sound São Paulo」に出演し、そのステージはザ・キュアー、ペット・ショップ・ボーイズ、マリーザ・モンチらと並ぶ、フェスティバルのトップ10パフォーマンスに選ばれた。

[Instagram](#)

[YouTube](#)

[Spotify](#)

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【サリフ・ケイタ - 『So Kono』アルバム詳細】



発売日: 2025年4月11日

エグゼクティブプロデューサー: ルシール・レイボーズ、仲西祐介、ローラン・ビゾ

A&R: ローラン・ビゾ

アートワーク: ジェローム・ヴィッツ (ルシール・レイボーズによる撮影)

グラフィックデザイン: Element(s)

サリフ・ケイタ - ギター、ボーカル、「Proud」のシンブ

バディエ・トゥンカラ - 「Awa」「Chérie」「Soundiata」のンゴニ

ママドゥ・コネ (通称「プリンス」) - 「Awa」のタマ、「Chérie」「Soundiata」のカラバッシュ

クレモン・プティ - 「Chérie」「Awa」のチェロ

ジュリア・サール、オリザ・ザマティ - 「Tassi」のバックボーカル

2023年4月18日～21日、ザ・リッツ・カールトン京都にてジュリアン・レイボーズがレコーディング (以下を除く):

- 「Aboubakrin」「Kanté Manfila」は、2023年9月11日、フランス・パリのOhm Sweet Ohm Studioにてジュリアン・レイボーズが収録。

- 「Tu vas me manquer」「Proud」は、2024年1月6日、マリ・バマコのMoffou Studioにてアブ・シセが収録。

「Awa」「Tassi」「Chérie」「Tu vas me manquer」はコース・ド・ラ・セル (フランス) のLa Grange 内、Studio Kasbahにてヨアン・ジョノーがミックス。

「Aboubakrin」「Kanté Manfila」「Soundiata」「Laban」「Proud」イェール (フランス) のJunoStudioにてベルトラン・フレゼルがミックス。

ボルドー (フランス) のGlobe Audio Masteringにてアレクシ・バルディネがマスタリング。

全楽曲の作詞・作曲: サリフ・ケイタ

全楽曲の出版: Nø Førmát! (ただし、「Tassi」はユニバーサル・ミュージック・パブリッシング、「Laban」「Tu vas me manquer」はデラベル・エディションズ)

Co-Produced by Nø Førmát! and KYOTOPHONIE

© & © 2025, Nø Førmát! / KYOTOPHONIE

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【KYOTOPHONIEについて】



京都で年2回開催される「KYOTOPHONIE ボーダレスミュージックフェスティバル」は、ルシール・レイボーズと仲西祐介(KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭の共同創設者)によって2023年からスタートした音楽フェスティバルです。2023年春から2024年秋までに、延べ約37,000人の観客を動員しました。

KYOTOPHONIEは、従来のジャンル、会場、形式にとらわれないクリエイティブな実験を促します。このような実験と分野横断的コラボレーションこそが、本フェスティバルの特徴です。KYOTOPHONIEは、京都府内のユニークな会場で、シーンを彩るアンダーグラウンドなアーティストから世界で活躍する国際的なアーティストまで、多彩なラインナップを紹介しています。

春開催の「KYOTOPHONIE Spring」は、姉妹イベントである「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」のその年のテーマからインスピレーションを受けアーティストを選定し、写真や音楽の枠を超えて同時開催しています。「KYOTOPHONIE Autumn」は、さらに自由なラインナップによって未知の音楽体験を提供し、世界を旅するような感覚を共有します。

2023 Spring — Club METRO / 東福寺塔頭 光明院 / HOSOO Hall / 金剛能楽堂 / ロームシアター京都 サウスホール / 京都コンサートホール アンサンブルホール(小ホール) / 渉成園 / 八竹庵(旧川崎家住宅)
ルーカス・サンタナ / 山川冬樹 / サリフ・ケイタ / EUTRO / TRIO SR9 / サンドラ・ンカケ / ラ・チカ / SHOW-GO / KYOTO JAZZ SEXTET / 森山威男 / 中野公揮 / 吉田篤紫郎(文楽人形遣い) / バラケ・シソコ / ヴァンサン・セガール / ピエル・ファッチーニ / 大友良英 / 小山田圭吾 / 田中知之 (FPM) / ピーター・バラカン / Kobeta Piano 他

2023 Autumn — 天橋立

シンド・カフカ directs el tempo / シコ・セーザル / U-zhaan×環ROY×鎮座DOPENESS / baobab / ジュリア・ショートリード / LUCA×山本啓×仙石彬人 / 青葉市子 / 石橋英子 Band Set / ルエジ・ルナ / INNA DE YARD (HORACE ANDY, CEDRIC MYTON from The Congos and WINSTON MCANUFF, backed by Home Grown) / 西原 鶴真 / Eki Shola / 仕立て屋のサーカス

2024 Spring — 八竹庵(旧川崎家住宅) / 東本願寺視聴覚ホール / Club METRO

ロス・グラシオーソ / シェニア・フランサ / ダビ・コペナワ / イーモン・ドイル / ナイルスウィーニー / ダビッド・ドノホ / ケヴィン・バリー / Black Boboi / kott / CROSSBRED 他

2024 Autumn — ロームシアター京都 メインホール

ジルベルト・ジル、アケリ・アブラソ・ジャパンツアー 2024

本プレスリリースの情報は、2025年2月14日現在のものです。内容は変更される可能性がありますので、ご了承ください。

【MODEについて:共同主催者情報
Soundwalk Collective & Patti Smith | CORRESPONDENCES】



MODE

MODEは、2018年にロンドンで創設された実験音楽、オーディオビジュアル、パフォーマンスを紹介するプラットフォーム。坂本龍一がキュレーターを務めた初開催以降、ロンドンと東京を拠点に「音」を軸とした国際的な文化交流の場として展開している。都市の余白や歴史的な音楽芸術ベニューを舞台に、空間の建築的特性や場所がもつストーリーに呼応する多彩なプログラムを実施。アーティストとオーディエンスが音楽や芸術文化、その歴史的背景を分かち合い、インスピレーションを交わすことで、新たな実験的表現が生まれる場を創出している。

過去の主な出演者(抜粋)

– 2018 LONDON (The Barbican Centre / The Silver Building / Camden Art Centre)

坂本龍一 + Alva Noto / 坂本龍一 + David Toop / Beatrice Dillon / 空間現代 / 細野晴臣 + Acetone / Curl / 毛利悠子 + 鈴木昭男

– 2019 LONDON (Round Chapel / 55-57 Great Marlborough Street / South London Gallery) Rashad Becker / Eliane Radigue / Julia Eckhart / Bertrand Gauguet / Yannick Guédon / Wolfgang Voigt / Laurel Halo / Ellen Arkbro / Tomoko Sauvage / John Also Bennett + Amosphéré / Loraine James

– 2023 TOKYO (淀橋教会 / Vacant Space in Aoyama / WWW)

Eli Keszler / Kafka's Ibiki (Jim O'Rourke, 山本達久, 石橋英子) / Park Jiha / 伶楽舎 / Posuposu Otani / Merzbow / Kali Malone featuring Stephen O'Malley & Lucy Railton / Laurel Halo / Tashi Wada with Julia Holter / Riki Hidaka

– 2024 TOKYO (草月ホール / 伊藤邸(旧園田高弘邸) / LIQUIDROOM)

INCAPACITANTS / Puce Mary / Yuko Araki / FUJI|||||||TA / Okkyung Lee / 坂田明 / Bendik Giske / Valentina Magaletti / Still House Plants / goat